

会員数	37,181	(前月比) 土 0
郵 送	9,087	(前月比) - 280
手配り	26,407	(前月比) + 255

協同基金到達額 2,496,612,000円(5/31現在)
[前月比 469,000減]

協同基金出資者数 17,126名(5/31現在)
いのちを守る助け合い募金額 10,843円(5/1~31)



〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
Tel.072-244-8061
Fax.072-244-7860

1部 30円

新会長に江戸道子さん(西区ブロック ふくいずみ支部)

「友の会の力でこの世の中を光らせたい」



新会長の江戸道子さん(左端)とバトンタッチをした森島嘉之さん(右端)

健康友の会みみはら第31回総代会開催

5月26日(土)、みみはらホールにおいて第31回健康友の会総代会が、代議員76人中73人の出席で行われました。主催者を代表し、森島会長が開会挨拶、同仁会を代表して齊藤理事長の挨拶、そして来賓の方々からメッセージを頂きました。

奥村事務局長より第1号議案「17年度の総括と18年度の方針」の提案。2017年度は①介護保険制度の変化(保険料の増加や要支援1、2の総合事業への移行・堺市は3年間猶予だが②堺市長選や解散総選挙③憲法9条改憲阻止への3000万署名運動と、平和、社会保障制度の充実を求める取り組みをあげました。また憲法9条に対する運動も3000万署名をやり切り、戦争しない・させない国づくりを進めていか

ないといけません。支部活動ではあまり場が大きく広がり、班も129から148へと増えるなど大きく活動が広がっています。友の会活動の2018年度は、2020年ビジョン達成に向けて組織の飛躍をつくる年にして、各支部で準備を進めます。そして会員が職員と共に活動し、健康でいきいきと活動できる組織づくりをめざして、情勢や方針を学び実践することを確認しました。2号議案では会則の変更が提案

され、確認されました。全体討論では各ブロックより、2017年度のブロック、支部活動が報告され、鳳支部からは「子ども食堂」についての報告がありました。3号議案では新役員体制の提案で、会長が森島嘉之さんから江戸道子さんへ。事務局長が奥村雄大さんから土井康文さんへと変わることが確認されました。



すべての議案が満場一致で採択されました

ても左をむいてもこの世は真っ暗闇。その暗闇を私達友の会で光を当てていきたい」と語られました。

住んでよかった と言える堺市に

要望運動のスタート宣伝と集会を開催

5月16日
堺社会保障
推進協議会

例年、取り組んでいる堺市に向けての社会保障の充実を求める要望運動は、今年は5月16日(水)午後5時30分から堺東駅前宣伝からスタートしました。

宣伝では、堺社保協に加盟している団体から、高すぎる国保料・介護保険料の引き下げや子育て支援の充実などを訴えました。

その後、市役所地下会議室へ会場を移動して、スタート集会。発言の最初は、大阪府保険医協会。校医が実施した学校健診後から見えてくる子どもの貧困についてアンケートを基にしたデータが示されました。

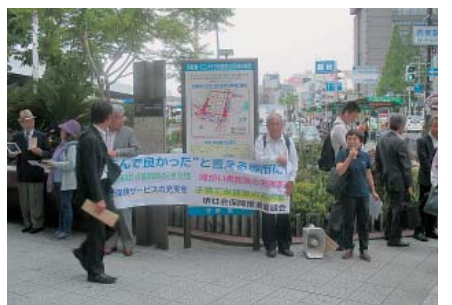
介護の現場からの実態として、同仁会介護保険事業部の小川さん(介護福祉士)が、「報酬改定は、介護保険従事者の報酬など、ほとんど改善されない厳しい状況。堺市の介護保険総

合事業は、要望運動の成果もあって、今期は、要支援1・2でも、これまで通りの専門職による事業になっているが、たった6時間×2回の講習を受けた無資格者による介護も始まっている。今回の「改定」では、特に、訪問介護ヘルパーの時間を制限する動きが強まっている」と発言しました。

生活保護については、堺

最後に、岡井市会議員を講師に「予算から見える堺市政」について学習しました。堺市の財政状況は、全体として赤字で健全であると説明。「竹山市政になって、少しずつ、私たちの要望が実現している(保育料の第2子からの無料化や、就学援助制度の改善・国保の特定健診の無料化・がん検診の無料化(2年間のみ)など)が、まだまだ課題も多く、健全財政を生かす、さらに思い切った施策を進めるべきで、市議団として社保協とも連携して要求していく」と力強く発言されました。

(堺社保協事務局 南波 和代)



堺東駅前での宣伝

聴診器

今年3月、5歳の女の子が父親による虐待で亡くなった。4時起きで文字を勉強させていたのが、

書ける、「もうゆるして」と記していた。なんとかわいそうな、気が滅入る、胸が潰れる事件だろつ、ニュース途中で耐えられなくなりスイッチを切った。父親を重罪に処しても命は戻らない。字の練習するのを見て普通なら励ますはずの父親にどうして残酷な心が湧き出たのか▼戦時中ナチス兵は多くのユダヤ人、ソ連軍捕虜、抵抗する人たちを殺していった。そんなことをしたのはどんな人間なのか、戦後大量殺戮に関わった軍人の裁判を傍聴するなどして研究した女性がいた、ハンナ・アーレント。上から言われて行動しただけの言い訳を聞いた彼女の結論はナチス将校は普通の人だったというものだ。普通の人が残忍にならな

いたためには考え続けよと言ったリチャード・ウィルキンソンは著書「格差社会の衝撃」で格差のある地域、国は暴力も増えることを紹介している。政府による低い社会保障政策、不安定雇用、競争を煽る教育が格差を生んでいる。戦争ではない今、弱いものへの虐待、いじめそしてハラスメントの原因はこれら意図的に作られた格差だ。普通

のままであり続けたい私たちは「考え続ける」ことと普通を貫こう。(和)